

今月のことば

大切なものが
見えていない
ということとは
大切でないものを
大切だと
勘違いしている
ということ

(小池秀章)

「一番大切なものは何？」と聞かれたら、多くの人は、「いのち」と答えるでしょう。この答えが間違っているわけではありませんが、自分勝手なものさしで「いのち」を見ていないか、振り返ってみることが必要だと思います。

多くの場合、老人の「いのち」よりも若者の「いのち」、病人の「いのち」よりも健康な人の「いのち」の方が、大切だと思っ
ているのではないのでしょうか。人は生まれたからには皆、老い・
病み・死んでいきます。老い・病み・死んでいくことは、ダメ
になることでしょうか。仏さまは、老い・病み・死んでいくこ
とにも大切な意味がある、ということをお教えてくださいます。

また、私たちは、役に立つか立たないか、自分にとって都合
がいいか悪いかで、「いのち」を分け隔して傷つけていながら、
それが普通だと思っているのではないのでしょうか。仏さまは、
それが痛ましい在り方だと気づかせようと、はたらいてくださ
っています。

一楽真氏は、「大切なものが見えないということとは、見えな
いだけでは済みません。大切でないものを大切だと勘違いして
しまうのです」(『阿弥陀経入門』一〇六頁)と書われています。
私たちは、自分勝手なものさし(自分にとって「いいか悪いか」
「役に立つか立たないか」などのものさし)にとらわれて、大
切なものを見失ってしまっているのではないのでしょうか。「本
当に大切なものは何か。大切でないものを大切だと勘違いして
はいないか」、仏さま(真実に目覚めた方)のみ教えを聞かせて
いただく中で、常に、問い続けていかなければならないと思
います。

龍谷大学非常勤講師

小池秀章 こいけひであき

合掌